

就職支援への取り組み



北里大学就職センター
副学長・就職センター長
陽 捷行



本学では、これまでの「学生サービス部就職課」を再編し、就職業務に特化した「就職センター」を平成18年10月から設置した。

本学は、白金(東京都港区)、相模原(神奈川県相模原市)、十和田(青森県十和田市)、三陸(岩手県大船渡市)、新潟(新潟県南魚沼市)、北本(埼玉県北本市)の6キャンパス(計7大学院、7学部、2併設校)を有しているが、就職センターは学生数の最も多い相模原キャンパスに設置し学生支援業務を行っている。

生命科学・医療科学を学ぶ本学では、学部・専攻により進路が異なることから、就職指導においても、各学部などの特性に合わせたきめ細やかな指導・支援を行う必要があり、就職センター員が各キャンパスへ出向いて就職個別相談も実施している。

就職センターでは、各学部などの就職担当係と連携を図りながら相互補完的な学生支援を行い、学生が自己の適性や能力を理解し、主体的に就職活動を行うために様々な有益な行事を開催している。

具体的には、就職センターを中心に、各学部などでの就職ガイダンスの開催、各就職支援講座(自己分析講座、エントリーシート講座、グループワーク講座、SPPI(筆記試験)対策講座など)の実施、企業研究会の開催、また、就職センター員による履歴書・エントリーシートの添削及び模擬面接などを行っている。

就職センターでは、就職資料室を併設し、本学の後援組織である北里大学PPAを通じて学生のご父母から寄贈されたパソコン・プリンタ・スキャナをはじめ、企業および医療機関のパンフレット、就職活動関連書籍、就職試験結果報告などの機材や資料を多数完備している。

1 新たな支援

① 遠隔授業システムを利用した就職支援講座の実施

遠隔授業システムを利用し、相模原キャンパスでの就職支援講座を十和田、三陸キャンパスに同時配信することで、遠隔地キャンパスへの支援を強化している。

② ウェブカメラを利用した個別相談の実施

遠隔地キャンパスの学生からの相談に対し、ウェブカメラを介して就職センター員が対応することにより、距離や時間的制約のない支援を実現している。

③ キャリアアカウンセラーによる個別相談
就職相談の専門家であるキャリアアカウンセラーを配置することにより、個別相談や履歴書添削、模擬面接を行っている。

2 各学年次における主な支援

| 1 年次 | 3 年次 ※5 年次 | 4 年次 ※6 年次 |
|---|--|--|
| キャリア教育科目「仕事と人生」 ・外部講師による講義と講演を通じて、将来のキャリアプランニングへの技法を学習。(一般教育「人間形成基礎科目」前期選択科目) | 就職ガイダンス(各学部) 就職活動の進行に合わせて定期的に実施 就職支援講座(希望者) ・自己分析講座 ・エントリーシート講座 ・グループディスカッション講座 ・グループワーク講座 ・SPI(筆記試験)対策講座等 | 履歴書添削指導 ・個別の面談形式で学生ひとりひとりの個性・考え方を踏まえて、応募書類の添削。 |
| 2 年次 キャリア形成特別講座(希望者) ・3回シリーズの講座を通じて、段階的にキャリアデザイン(キャリアゴール)の意識を高めていく。 | 学内企業研究会・説明会 ・各キャンパス内で実施 インターンシップガイダンス | 模擬面接指導 ・実際の面接を想定した1対1の模擬面接。自信を持って本番に臨めるようにアドバイス。 |

3 就職資料室および就職センター



KJA 就職・進路相談会

3 ウェブによる支援(就職システム)

本学への求人票は「就職システム」上で管理をしている。在学生や卒業生は、就職システムを利用することにより、求人票の検索や企業・医療機関などの情報、卒業生が作成した就職試験内容報告を閲覧することができる。

4 4 年生内定者による進路・就職相談

平成19年度から、4年生の内定者が自主的に立ち上げたKJA(北里大学ジュニアアドバイザー)により、これからの就職活動を開始する後輩や大学院への進学を検討している後輩に対し、年に3回ほど、進路・就職相談会を開催している。

KJAのメンバーが就職活動を通じて得られた体験談や、内定に至るまでの留意点などの様々な実例が紹介されるほか、参加した学生との間で活発な情報交換や後輩への適切なアドバイスが行われ、参加者から好評を得ている。

就職センターでは、KJAの活動への支援も行い、教職員と共に一丸となって在学生の就職活動を支援している。

佐賀大学のキャリア支援



佐賀大学

佐賀大学キャリアセンター
教授 緒方正嗣

佐賀大学では、平成10年4月に学生部に「就職相談室」を設置、同15年10月、佐賀大学と佐賀医科大学の統合時に、「学務部就職課」として就職支援を強化、16年4月の国立大学法人化後もこれを継続した。

19年10月、大学の入口である「入試課」を「アドミッションセンター」に、出口である「就職課」を「キャリアセンター」に改組した際、キャリアセンターの機能を従来の就職支援に加えて、キャリア教育にまで拡大し、専任教員を配置することとなった。

それまでのセンター長（併任教授）と職員4名体制に、専任教員を加えて現在に至っている。以下、センターの取り組みの概要を、就職支援とキャリア教育に分けて紹介する。

1 就職支援

佐賀大学は、教育、経済、医学、理工、農学の5学部構成、1学年定員は約1400名の中規模の地方総合国立大学である。学生は、佐賀、福岡、長崎等の近隣県出身者が多く、女子学生の比率は40%である。したがって、就職に際しては、もちろん大都市圏を希望する者も多いが、相対的に、近隣の地場企業を希望する者が多いのが特徴的である。

たとえば、20年度の実績では、民間企業への就職が780名で、うち350名は女子である。このような背景から、キャリアセンターでは全国規模の企業だけではなく、九州、佐賀近隣の企業からの求人（インターンシップを含む）情報を収集、提供している。また、学内での会社合同説明会の開催、具体的な就職活動に当たってのイベント

リーシートの書き方、面接試験時の礼儀や応答の仕方など、センター職員や専門の相談員、外部講師の協力を得て対応している。

特に、非常勤の佐賀大学OB相談員による懇切な個別指導は、学生に好評である。

なお、就職支援の具体的なツールとしては、教務関係のシステムと一体化した「Live Campus」があり、就職関係情報の収集、提供、就職データの加工・処理を行うことができるが、昨今ほとんどの学生が携帯電話を持つ時代にあつて、より迅速、正確に情報収集、提供ができるように高度化を進めている。

2 キャリア教育

豊かすぎるほど豊かな時代になったせいか、明確な人生の設計図（キャリアデザイン）を持って、大学、学部、学科を選んで進学してくる若者はあまり多くない。本学の入学者も同様である。そこで本学では、そのような学生に、早期から健全な勤労観、職業観、人生観を涵養し、自立して生きる力を付与することが重要であるという認識の下、16年度から、1年生前期の「大学入門科目」（半年15コマ、2単位）の中で、2コマの「キャリアデザイン入門」というキャリア教育を行っている。

将来の人生設計に関心と意欲を持ち、人生における働くことの意義について考えることで、学習態度や生活態度が大きく変化するし、なぜ勉強しなければならないのか、今の学習が将来どのような役に立つのかということについての発見や自覚が、若者を成長さ

せるからである。もうひとつのキャリア教育として、主に就職活動を開始する3年生後期の学生を対象に「キャリアデザイン講座」という半年15コマ（2単位）の講義を行っている。

その狙いは、本学出身の若手のOB・OGに、自分の就職活動や卒業後の社会人としての体験を披露してもらうことで、学生諸君にロールモデル（人生のお手本）を提供することである。これは、本学同窓会の協力を得て17年度から実施しているが、300人収容の大講義室が満杯になるほどの好評である。

今後の課題としては、早期のキャリア教育のさらなる充実（時間数、聴講者数の拡大）と、学部学科での専門教育とキャリア教育の融合強化である。

この数年、専門教育担当教員のキャリア教育の重要性に対する理解も進んではいるが、未だに、大学は専門教育に専念すればよいという考えの先生方も少なくない。

つらつら思えば、実は、大学の教育全体が「キャリア教育」だということを感じておくべきである。



池上寿伸教授（キャリアセンター長）による「キャリアデザイン講座」開講の挨拶